

様式 6

平成16年度共同利用実施報告書(研究実績報告書)

1. 研究種目名 一般共同研究 2. 課題番号 2004-G-23
3. 研究課題(集会)名 和文：プレート境界としての富士川河口断層帯の完新世における活動性
英文：Holocene activity of the Fujigawa-Kakou fault zone as a plate boundary
4. 研究期間 平成16年 4月 1日 ~ 平成17年 3月31日
5. 研究場所 静岡大学理学部
6. 研究代表者所属・氏名 静岡大学理学部 林 愛明
(地震研究所担当教員名) 島崎邦彦

7. 共同研究者・参加者名(別紙可)

共同研究者名	所属・職名	備考
林 愛明	静岡大学理学部 教授	
田中 秀人	静岡大学大学院 博士前期課程学生	
島崎 邦彦	東京大学地震研究所 教授	

8. 研究実績報告(成果)(別紙にて約1,000字 A4版(縦長)横書)(別紙に作成)

10. 成果公表の方法(投稿予定の論文タイトル、雑誌名、学会講演、談話会、広報等)

1). 投稿予定論文:

(1) 田中秀人・林 愛明・丸山 正:富士川河口断層帯の完新世における活動性.

Holocene activity of the Fujikawa-kako fault zone、活断層研究

2). 学会発表

(1) 田中秀人・林 愛明・丸山正:富士川河口断層帯芝川断層の完新世における活動性.

2004年1月、北淡活断層シンポジウム。

平成16年度東京大学地震研究所一般共同利用研究成果報告書

プレート境界としての富士川河口断層帯の完新世における活動性 Holocene activity of the Fujigawa-Kakou fault zone as a plate boundary

林 愛明 (静岡大学理学部)

富士川河口断層帯は、プレート境界である駿河トラフの陸上延長部にあたり、静岡県東部の富士川の河口付近から富士山南西麓にかけてほぼ南北に延びる、陸上部での長さが約 20km の断層帯である。断層帯の東側には富士山の斜面に続く富士宮・岳南の低地が、西側には浜石岳・天守山地等の第三系の山地があり、両者の中間には蒲原・星山・羽鮒などの丘陵地帯がある。本断層帯はこれらの地形・地質境界をなしており、また第四紀においても活発に活動している活断層としてこれまでいくつかの調査報告がなされてきた(例えば、山崎ほか, 1979; 下川ほか, 1996)。富士川河口断層帯の北西セグメントを構成する芝川断層に関しては、山崎(1979)が新富士溶岩や古富士泥流の鉛直変位量から平均変位速度を推定し活動度を A 級としている。また、静岡県地震対策課(1996)により断層南端において、トレンチ調査が行われ、約 2 万年前以降 4 回の活動が推定され、最新の活動は約 3,000 年前とされた。しかしながら、芝川断層の中～北部では、詳細な断層変位地形、断層トレースや完新世における活動履歴に関する調査はなされてこなかった。本研究では、富士川河口断層帯の活動性に関する研究の一環として、主に芝川断層沿いに空中写真判読と現地地形・地質調査を行った。その結果、芝川断層に沿って断層変位地形を見出すとともに、それに基づいて行ったトレンチ調査と断層露頭の調査により、本断層が完新世にも繰り返し活動し歴史時代にも活動した可能性が高いこと、さらに、従来報告されていなかった活断層を新たに見出し、その最新の活動は 1,500 年前以降であることも明らかになった。また、芝川断層の北部延長に新たに断層露頭を見出し、完新世において活動したことが明らかになった。